

五

大正八年三月

揮春商會聯合會
設在東京

外務省

3-0319

0457

受07857類



大正八年三月十五日 接受

通等



信箋五五番
大正八年三月五日

立輝春

副領事 秋洲郁三郎



外務大臣子爵内田康哉殿

輝春商興合名會社設立の用する件

當地居住安陪兼吉外三名ヨリ別紙、
通り輝春商興合名會社設立認可の申
請有之候、付内查候處別紙通り當地
方金融助長上願ル様宜トモ思ハレス候、依
リテ何等弊害アルモトモ思ハレス候、依

大正八年四月十日

記録第二部 接獲

在間島總領事館輝春分館

リ商方、於テハ之カ認可ヲ與ク、尚般登
記簿ニ制式登記ヲ行スル候得共、銀行
業務ニ直ルヤモ思料セラレ候、付左記書
類相添、一應此段及請副候取具
追テ添附書類ハ御同割ト同時、御返戻
相成候様致度申添候

一輝春商興合名會社設立認可申請書一通
一輝春商興合名會社定款
以上

記

一申請者、原籍在所氏名年令及職業

原籍広島縣山縣郡上殿村二百三十九番地

住所支那輝春縣輝春西門外

村木商 川廣謙吉

明治十七年九月廿日生

原籍忠告知縣知多郡龜崎町大字元川五番地

住所支那輝春縣輝春西門外

貿易商 杉浦辰次郎

明治十三年九月廿二日生

原籍和歌山縣東牟婁郡田原村字下田原

六百番、田一併地

在開島總領事館圖書分館

住所支那輝春縣輝春西門外

貿易商 橋保都

明治十二年八月廿二日生

原籍福岡縣胡倉郡高木村字伊田十九番

七拾七番地

住所支那輝春縣輝春西門外

醫師 安部兼吉

明治七年四月廿二日生

一資産並信用、程友及前科、有無

杉浦辰次郎 資産約 九千二百円

橋保都 三萬五千円

川廣謙吉 三萬円

安部兼吉 一萬円

右自以上、資産ヲ有シテ地方ニ於ケル勢力
 家トシテ内鮮支人同ニ多大ノ信用ヲ得
 テスル者浦橋川廣ノ三人ノ商取引ノ内地及
 朝鮮ニモ關係者ノ信用ヲ博シ居ル者前
 科也

一、先款ノ目的以外ニ事業ヲ企畫スルコトナラズ
 設立当初ノ主ニ貸出シ、之ニ勉メ担保ヲ有スル
 モノニ限リ、内鮮支人ノ區別ナク、相当ノ貸附ヲ
 爲スルヲ、又信用貸附農産物ノ賣買買等
 ニモ貸附ヲナスルモノトスル也。及、貸出シ居
 ルモノ、依リテ、貸附ノ不足ヲ生ズル場合ニ、他
 ノ員、貸入ラフ友シ、又預金ヲ受ル
 ニ内規ヲ定メ居ルカ、貸附及借入等ノ利
 率大要ニ左ノ如シ

在開島總領事館理事分館

貸附利率

- 一、金百圓以下、月費三厘、月滿
- 二、金千圓以下、月費三厘、月滿
- 三、金千圓以上、月費三厘、月滿
- 一、借入ノ金百圓ニ對シ、月費三厘、月滿以内
- 二、預金ノ金百圓ニ對シ、月費三厘、月滿以内
- 一、會社設立ノ友ノ地方ノ金融状態ニ惡
 影響ヲ与ヘ未ダスル者ニキリヤ
- 一、資金融通上、會社設立ノ当地方ニ於ケル小
 資本家ノ爲メノ勸進セラルル者ニテ、以テ一方
 私人間ノ貸借關係ト趣ク異ラシ相違

同、於ケル権利義務、履行ヲ確實ナラシ
 ノ又ハ資本家ノ商取引ニ支那人ト競
 争スル上ニ於テ迅速ニ資金ヲ融通
 得ルヲ以テ従来ニ比シ商取引ノ奔
 走ヲ計ル等、効果ヲ与フルノ何等
 莫クハ虚ヲナキニテ却テ一服ニ之
 以テ早クテ待ツモノ、如シ
 一、公、秩序又ハ善良ノ関係、及
 有無
 會社ニ於テ公、秩序ヲ考ヘ又ハ善良
 同、係、及ルノ行為ナキモノト思科
 以テ

正徳書局印

第 1 卷 第 15 号
第 2 卷 第 4 号

文書課長 長 文書課 大正八年四月七日 接

大正八年三月廿七日起章 同日附 四月八日附

送第 四五 號

主任 大正八年四月七日

主任

別紙

未

主管 文書課

奉

内田大臣

左 輝 春

秋 洲 副 領 事 宛

輝 春 商 興 合 名 會 社 設 立

三 箇 之 件

大正八年四月七日 記録第二部 接

外 務 省

本件三箇之件、三月五日附分第五五号
 于市役所、趣了兼、此三輝春
 商興合名會社、目的トスルニ、同會
 社定款、大ニ條ニ依リ、商工業者ニ對ス
 ル資本貸附及之ニ關聯スル倉庫業
 仲介業トスルニ目的トスルニ、銀
 行ニ營業シ、目的トスルニ、非
 附屬調査書ニ依リ、同會社ニ定款

目的以外に於て預金ヲ受入ルルルキ
 由規ヲ定メ居ルル趣ノ要斯ルルルキハ
 定款ニ定ムル目的事項ノ以テ固外
 外ニ巨ルルノミナラス預金及貸付ヲ併
 七章ハハルカニ銀行業務初メ目的トスルモ
 ノルルヲ支那ニ於テハ邦人ノ銀行業
 取締規程ニ基キ大正五年五月大
 藏省令并十号銀行條例施行
 細則ノ例ニ準テ●スル形式依リ認可
 シ申請セシメ者方●大蔵省トノ
 協議ヲ以テ可存シ決スルキモノニ有テ
 升又定款ハ三条規定ノ範圍内ニ於
 テ業務ヲ開始セント欲スル共目的以外
 ニ互ハカキキ業務初メ一歩之ヲ若クシ得
 サハ勿論トシテ尤モ大官ニ於テ其
 業務開始ヲ必要ト認ムルルニ於テハ

適当 齊大監督ノ下ニ之ヲ許可セラル

業務 業務ニ関スルハ元來同会社ノ目的ト

スルニハハハハ三者ノ利害ニ関スルコ

ト甚大ナルヲ以テ之ヲ許可スルニ當リテ

会社ノ内容ヲ殊ニ社員並ニ業務担当者

ノ信用資力及 同業 一般經濟状況ニ及

ボク影響等 對 分 類 密 査 査 査 査

嚴重ニ監督ノ下ニ之ヲ許可セラル

外務省

キモノ大シクテ右ノ各々ノ上銀行トシテ

ノ認ララズ申請モシカニ或ハ定款

才ニ条規定ノ範圍内ニ於テ業務ヲ

コシカニ決意スル者及以テ

准也

進テ中 務 分 査 査 査 査 査 査 査

（各 務 分 査 査 査 査 査 査 査）

13801

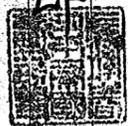
大正八年五月五日 接受 通第一課

公信第 八七號

大正八年四月二十四日

在 輝春

副領事 秋洲 郁三郎



外務大臣子爵内田康哉殿

大正八年五月廿三日 記録第一課 接受

輝春商興合名會社設立ニ關スル件

本件ニ對スル三月五日附公信第五五號ヲ以テ御
回訓、趣教兼其旨直ニ申請者ニ通達致
候處申請者ニ於テハ當方、尙會社營業ニ定
款第二條ニ規定セシメ範圍ニ止メ預金並ニ貸
附ヲ併ヤ禁ム銀行類似業務ヲ為サシム旨誓

在 間島總領事館 輝春分館

ト候ニ付右會社設立差支ナキモノト認メ左記
ノ通り許可指令ヲ交附シ會社設立登記申
請セシメ臨機當館ニ於テ登記手續(大正八年
上月八日附通密令送第一六四号ニ依リ)ヲ完了致
スヘク候間右ニ御了知相成度此殿回報旁
申進候敬具

記

輝春西門外

安陪兼吉外三名

大正八年二月十四日附申請輝春商興合名會
社設立、件許可ス

大正八年四月二十一日在輝春

副領事 秋洲 郁三郎

第 二 項 第 號

文書課長

大正八年五月廿三日接受

大正八年五月廿二日起算
同日、年、月、日、附

送第 一 號

主任

主管 通商局長

内田大臣

在理者

秋沙副領事

大正八年五月廿三日記録第二部接受

環春高興合名會社設立之件

外務省

本件ニ関シ客月二十四日附公信亦

八四號貴信ヲ以テ所蒙申ノ趣了業

然ルモ本會社定款ハ尙方未

シテ、付右一額申入手

ノ上該會社設立認可申請書及、案

内送附在成度以申進也



附屬書類添付

大正八年六月十四日接受

通第一號

公信第一二一號

大正八年六月四日

在輝表

副領事秋田郁三



外務大臣子爵内田康哉殿

大正八年六月十七日記録第二部接覽

會計課

用度

輝表高興令在會社設立之関之件
本件ニ関シ定月二十三日付通送付六一
號ニ以テ市下命、趣致承取付設置立
認可申請書並ニ定款一部及送附款
条可然御取計相成度此段申
進致致具

在開島總領事館輝表分館

送テ本件登記簿及ヒ登記用紙送付
方四月三十日電請段置付未及
送ニ及リ、至急申致送付致
換致交申候致

26/17

18322

瑋春商興合名會社設立認可申請書
今般奉地方官覽之鑑ニ別紙簿意書ニ基
キ別紙定款ノ通リ會社ニ組織致度候所
御認可相成度此段及申請候也

大正八年二月十四日

瑋春商興合名會社員

吉林省瑋春縣瑋春西門外

安陪兼吉

橋保都

杉浦辰次郎

門廣謙吾

副領事 秋洲郁三郎殿

在野田日本領事官

(大阪黒川製)

璋春商興合名會社設立報告書

講和成立時期次第接近之来、其實現亦近キ特異ニ
在ル今日一般經濟界ノ為ニ影響有リ甚ク可キハ論
俟タズ殊ニ璋春ノ如キハ我朝鮮ニ相接シタル
露國ニ連壤シ兩者トノ關係極メテ密接ナルモノアリ
テ他ニ此ヲ見サル重要ナル位置ヲ成セリ 隨而市場販
引ノ如キ三國ノ通貨ヲ以テシ所謂混沌タル状態
ニアリテ戰後ノ變調ヨリ及ホス處亦亦實ニ大ナリトス
此秋ニ際シ當地貿易ニ經濟ニ最モ優待地ヲ
ヲ有スル我カ實業家ハ大ナル自省ト謝意ヲ以テ
ル可キ經濟戰ニ處スルノ覺悟ヲ必要トナス是レ金
ニ當方面ニ對スル各人ノ義務ナル可シ而シテ一般經
濟ニ基礎ヲ確立スル為メ最モ緊急問題タル其
ノ第一歩ハ金融機關ノ設置ニアリ即チ是ニ因リ
産業ノ振興貿易ノ發展ヲ計リ以テ我カ實業
家ノ健全ナル基礎ヲ築カシムルヲ得ヘシ亦チ我
々新同胞啓發ノ資タラシムル處アリハ以テ各
人ノ足レトメスモノナリ
要スルニ吾人ノ企圖セントスルモノ夥シナリト雖モ
就中金融機關ノ設立ヲ以テ最モ急務ノ急務

(大阪黒川製)

峰春商興合名會社定款

第一章 總則

第一條 本社の次條に規定する目的を以て設立する會社を
會社トス

第二條 本社の商工事業を對する資本は實收資本と同額
スルを營業資本トシ、其目的トス

第三條 本社の商號を峰春商興合名會社ト稱ス

第四條 本社の本店を吉林省輝南县輝春ニ置ス

第二章 社員及出資

第五條 社員ノ氏名住所出資額ハ如シ

金野十五百圓 吉林省輝南县輝春

原籍福留縣朝倉郡高木村大石田町子爵會社 陪業 吉

金野十五百圓 公所

原籍和歌山縣東牟婁郡因幡町下田町子爵會社 橋 保 部

金野十五百圓 公所

原籍愛知縣知多郡東郷町下川赤松五番地 杉浦辰次郎

金野十五百圓 公所

原籍廣島縣山縣郡上段河 野村廣謙吾

第六條 出資額ハ三十日ノ期間内ニ其株ハシナス事

ニ由ル

(大阪 黒川製)

第七條

出資額、株式の息、タルモノハ其株式シヤス
ベキ額ヨリ實際株式ノ当日迄金債百
ニ對シ日歩金金田ノ割合ニ以テ延滞利息ヲ
仕拂ヒ猶損害賠償債ヲ急ニトシ要ス

第八條

社員ハ他ノ社員全部ノ承諾ヲ得ズニ其株式
分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓リ渡ストシ得ズ
之ニ及ビ且行爲ハ之ヲ株式會社對抗スルコ
トヲ得ス

第九條

社員ハ他ノ社員全部ノ承諾アルニ非ケル自己又
ハ第三者爲メニ會社ノ營業ノ全部額ノ全部

商行為ヲ爲シ又ハ之ノ上同種ノ營業ヲ目的トシ

ル他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ス

社員カ前項ノ規定ニ及ビ且自己ハ爲メニ商行為

爲シ且時ハ他ノ社員ノ過半數ノ決議ニ依リ

會社ヲ爲メ爲シタルモノト見做スコトヲ得

第十條

會社財產ヲ以テ會社債務ヲ完済スルコト能ハ
ル時ハ各社員連帶シテ其剩餘ノ責任ヲ任

第十一條

設立ノ後會社ノ加入シタル社員ハ其加入ノ前ニ生
ル會社ノ債務ニ付テモ亦責任ヲ負フ

第十三條

業務ノ執行及ヒ會社代表

(大阪 黒川製)

第十二條 本社ノ業務ハ業務執行社員ニシテ執行ス

第十三條 業務執行社員ハ或ハトシ總社員ノ同意ヲ以テ

社員中ヨリ之ヲ選任ス

第十四條 業務執行社員ノ任期ハ一ケ年トス但任期満了後

再選スルコトヲ得

第十五條 業務執行社員ニ選任セラルル社員ハ正當ノ事由

ルニ非ザレバ解任ヲ為スコトヲ得ス又任期中解任セラル

ルコトナレバ正當ノ事由ニ因リテ解任ヲ為スニ他ノ社員

ノ一致アルコトヲ要ス

第十六條 業務執行ノ業務執行ノ社員ノ過半數ニ以テシテハ

會社ノ業務ハ或ハトシ總社員ノ同意ヲ以テ業務執行社

員ニシテ執行スルコトヲ得但其決議ノ所ニ非ズ業務執

行社員ノ決議ヲ依ラズル時ハ之ニ非ズ

第十七條 業務執行社員ハ委任ノ本旨ニ從ヒ善ク良ナル處理

者ノ注意ヲ以テ其業務ヲ處理スル再選ヲ得

第十八條 業務執行社員ハ社員ノ請求アル時ハ何時モ之

業務及會社財産ノ狀況ヲ報告スルコトヲ要ス

第十九條 業務執行社員ハ業務ヲ處理スルニ必要ナル費用

金錢其他ノ物ヲ會社ニシテ渡シ得ルモノハ其任取

タル果實亦同之業務執行社員ハ會社ノ為メニ自己

(大阪黒川製)

ノ名ヲ以テ取得ニシテ權利アルトキハ之ヲ會社ノ移轉
スルコトヲ得ヌ

第二十條 業務執行社員ガ會社ニシテ渡ラシメタル金額ノ其利
益ハ爲シテ用ニハキ金額ヲ自己ノ爲メニ尙覺ラセシメ
ハ其消費ニシタル日以後ノ利息ヲ得ルコトヲ得。猶ホ損
害アリタル時ハ其賠償ノ責ニ任ス

第二十一條 會社ノ業務ヲ處理スルニ付テ費用ヲ受ケル時ハ業務
執行社員ハ會社ノ之ニ可辨ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十二條 業務執行社員ガ業務ヲ處理スルニ付テ受ケル金
費用ヲ支出セシメテ會社ニ對シテ其費用返付スル
日以後ニ於テ其費用ノ時ニ付テ其利息ハ債權者ノ請
求スルコトヲ得。業務執行社員ガ業務ヲ處理スル
爲メ自己ニ過失ナラシメ損傷ヲ受ケシメタルハ會社
ニ其賠償ノ請求スルコトヲ得

第二十三條 業務執行社員ノ報酬ハ社員ノ過半数ノ決議ニ
依リテ
第二十四條 支配人ノ選任及責任ハ社員ノ過半数ノ決議ニ
依リテ
第二十五條 定款ノ變更其他會社ノ目的ノ範圍内非行爲ヲ
爲スルニ總社員ノ同意スルニ必要ナシ

第二十六條 各社員ハ何時ニテモ業務及會社財産ノ侵害檢



(大阪 黒川製)

査スルニトシ得

第三十七條 業務執行社員ハ會社ヲ代表ス

第三十八條 會社ヲ代表スル社員ハ會社ノ營業範圍ニ一切ノ裁判上裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス

第四十條 計算

第三十九條 營業年度ハ毎年一月十五日ヨリ翌年二月十一日ヲ終ル

第三十條 業務執行社員ハ營業年度ノ終リニ營業ノ概況ヲ書類ヲ社員提出シテ其承認ヲ受ケルニトシ得

一 財産目録

二 貸借対照表

三 營業報告書

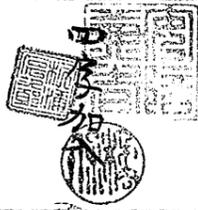
四 損益計算書

五 利益配當額ノ議案

第三十一條 會社ノ其出資額額由ラハ一建シテ利益ヲ配當スル各準備金トシテ其利益ノ二分ノ一ハ積立ニシテモトス

第三十二條 會社ノ損失ヲ填補シ且前條ニ定ムル準備金ヲ捨除シ且後ニ損失ノ利益ノ配當ヲ爲シ得ス

(大阪 黒川製)



第三十三條 各社員ノ損益分配ノ割合ハ其ノ條掲ノ出資額ニ依ル

第五章 社員ノ退社

第三十四條 已ニ得ザル事由ニ時ハ各社員ハ何時ニテモ退社ヲ爲スコトヲ得

第三十五條 前條ノ場合外社員ハ其ノ事由ニ因リテ退社シ

一 総社員ノ同意

二 死亡

三 破産

四 禁治産

五 除名

第三十六條 社員ノ除名ハ左ノ場合ニ限リ他ノ社員ノ致シタルノ爲メトシ得但業務執行社員ノ除名セシタル社員ニ其旨通知スルコトヲ要ス

一 社員ノ出資ヲ爲スコト能ハカルトキ又ハ催告シテモ之ヲ履行セズ

二 社員ノ會社ノ業務ヲ執行シ又ハ會社ヲ代表スルニ當リ會社ニ對シ不正ノ行為ヲ爲シタルトキ

三 社員ノ其ノ條掲第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

四 業務執行社員ノ執行シタル業務ノ執行ニ關シテ

同業務執行社員ノ執行シタル社員ノ業務ノ執行ニ關シ

(大阪 黒川製)

與ニテトキ

五其他社員ノ責務ニ盡サルトキ

第三七條 退社員ノ對シテハ會社ハ退社當時ニ於ケル會社

財産ノ割合依リ其持分ヲ持込スモノトス

退社當時ニ於テ未ダ結了セサル事項ニ付テハ其結了

後ニ計算スルモノトシ得

第三八條 退社員ハ本店ノ所在地ニ於テ退社登記ヲ為シ所

ニ生ジタル會社債務ニ付テ責任ノ負ハ此責任ノ退

社登記後ニ至リテ経過スル時消滅ス

前項ノ規定他ノ社員ノ承諾ヲ得テ持分ヲ譲リ

渡シタル社員ニ之ヲ準用ス

第三九條 解散

第四十條 會社ノ存立期間ハ此條ノ制限ニ依リテ滿五ノ年

トス

第四十一條 會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一 前條ニ定メタル存立期間ノ滿了

二 會社目的ノ達スル事業ノ成リ又ハ其成ルヲ不能トシ

リタルトキ

三 該社員ノ同意

四 會社ノ合併

(大阪 黒川製)

五 社員ノ入トナラズルトキ

六 會社ノ破産

七 裁判所ノ命令

第四十一條 前條第一項ノ場合ニ於テハ社員ノ全部又ハ一部

ヲ以テ會社ヲ繼續スルコトヲ得但同意ノ爲メケサル

ニ社員ハ退社ヲ爲シタルモノト看做ス

第四十二條 會社ノ合併ヲ爲スニハ總社員ノ同意アルコトヲ要ス

第七十條 清算

第四十三條 會社解散場合ニ於ケル會社財産辨別處分

法ハ總社員ノ同意ヲ要ス但合併ノ場合

ノ場合ニ於テハ次條及商法規定ニ依リ總社員

又ハ其選任ニ充テラレタル清算人ヲ爲ストシテ

前項但書ノ場合ニ於ケル清算人ノ選任及解任

ハ社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第四十四條 剩餘財産ハ各社員ノ出資額ニ應ジテ之ヲ配ス

右項若商興合名會社設之ノ爲メ商法第四十九條

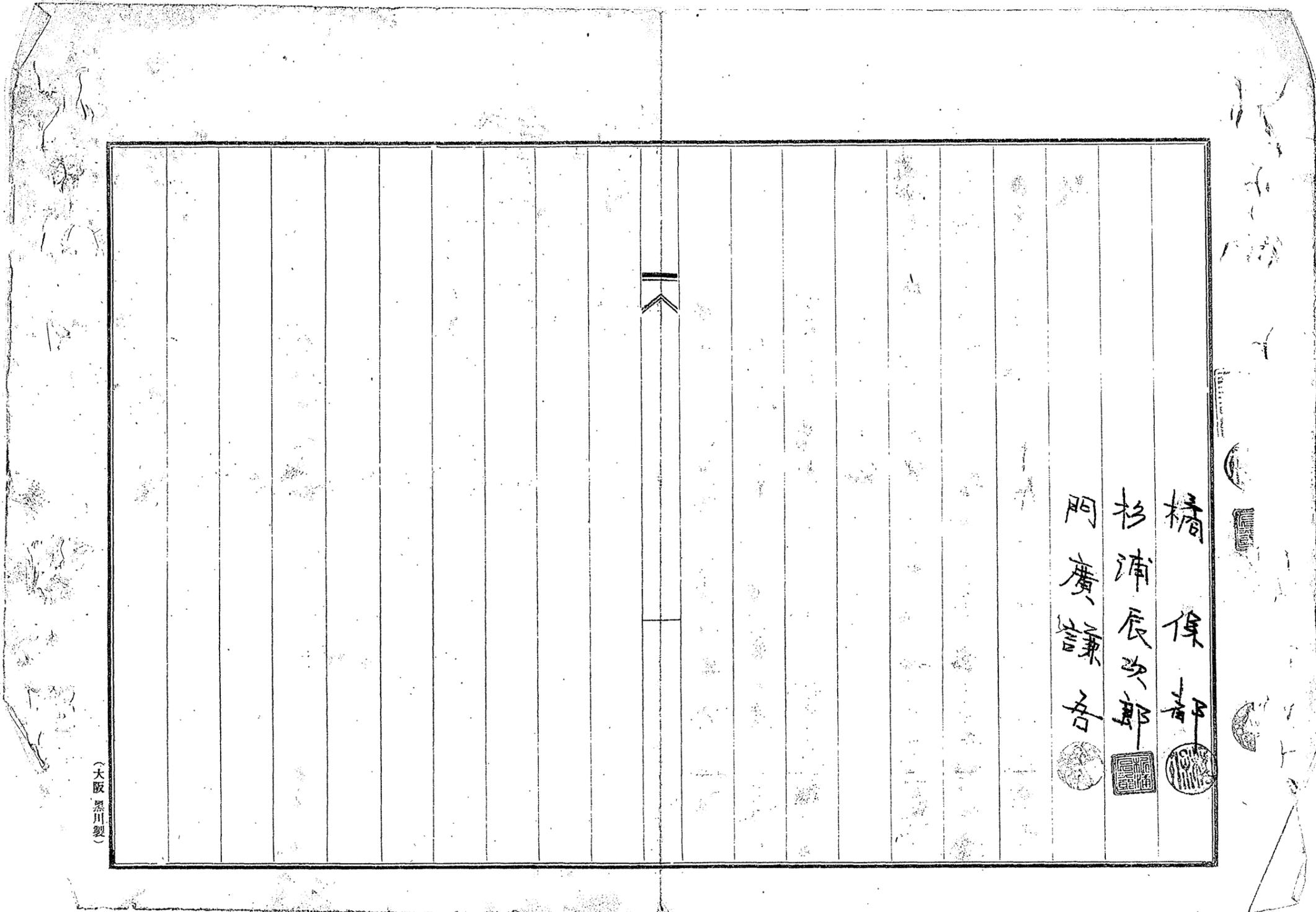
及第五十條ニ依リ此定款ヲ作リ各社員在ニ署名

捺印ス

大正八年二月十二日

安部 東 吉

(大阪 黒川製)



橋 保 部
杉浦辰次郎
阿廣謙吾



(大阪 黒川製)

3-0319

0490